



船生律子さん  
Funaoi Ritsuko

中心市街地ゾーニング  
検討委員会委員  
主婦 59歳 三関

市街地に機能を持たせることはとても良いことです。特徴あるゾーニングは市民意識の醸成につながるし、観光客にも説明しやすくなります。まちづくりに市民の気持ちを向かせることもゾーニングの大きな役割。同じ方向に気持ちが向けば、自ずとコミュニティーがまとまり、市街地も賑わっていくと思います。玄関口の駅を中心に東西自由通路が実現すれば、多くの人が行き交うようになり、新しいコミュニティーの誕生も期待できます。



1 ふれあい交流ゾーンは市街地の中心区域がエリア。旧ダイエーの建物を利用した「新鮮館おもち」などがある大町通り商店街はその中核／2 磐井病院跡地には保健・福祉機能を集約／3 隣接地に移転した家庭裁判所・簡易裁判所の跡地は公園として憩いの場に／4 JR一ノ関駅周辺は情報発信ゾーンとしてインフォメーション機能を担う／5 大規模な堤防改修事業に伴い磐井川河川公園も整備

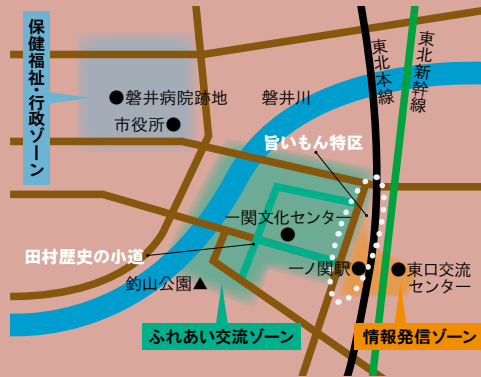


ふれあい交流ゾーンは市街地の中心区域がエリアだ。「わくわくするような楽しい地域をつくりたい」と語る中心市街地ゾーニング検討委員会の畠中良之委員長

1

◎保健福祉・行政ゾーン

磐井病院跡地周辺がエリア。市や県の行政機関の連結した保健福祉サービスが期待される。磐井病院跡地への保健センター、八幡町・あおば統合保育園、子育て支援センターなど保健・福祉機能を集約・整備する。



◎情報発信ゾーン

駅周辺から東北本線沿いの北側がエリア。多様な情報発信機能や世界遺産「平泉」の玄関口としてのガイダンス機能を発揮する。「食」「酒」や「音楽」といった地域資源を活用したにぎわいの創出が期待される。

◎その他

情報発信ゾーンの中には、地域資源を情報発信する「旨(うま)いもん特区」、ふれあい交流ゾーンの中には点在する歴史的建造物などを散策しながら楽しむコースとして「田村歴史の小道」もそれぞれ設定している。

◎ふれあい交流ゾーン

一ノ関駅から西に伸びる上の橋通りと地主町に挟まれた市街地の中心区域がエリア。あらゆる世代の市民、観光や仕事で訪れる人との交流、歴史・文化や自然を生かした潤いと安らぎのある空間の創出などが役割。

舟運は衰退、にぎわいを失った。だが、鉄道が発展とともに上川の舟運の要衝として栄えた。かつて、柵ノ瀬橋付近は、北山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。かつて、柵ノ瀬橋付近は、北山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。

大事なことは各ゾーンが役割を果たす機能する市街地

山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。かつて、柵ノ瀬橋付近は、北山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。

舟運は衰退、にぎわいを失った。だが、鉄道が発展とともに上川の舟運の要衝として栄えた。かつて、柵ノ瀬橋付近は、北山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。

山目町で安政年間から続く老舗「尾上屋呉服店」を営む畠中委員長は、ゾーニング構想の役割について「外に対する戦略的な情報発信と内(ゾーン)に住む人の誇りの醸成」と語る。市民にすれば、否応なくゾーニングされてしまう、「だったらわくわくするような楽しい地域にしよう」というわけだ。

ゾーニング構想を打ち出して中心市街地の再生を

2 中心市街地を活性化  
Power of Community

ゾーニングで  
機能的な市街地に

複数のコミュニティーが共存する商店街は、本来、強い生命力を持っている。一関市は岩手県南・宮城県北の中核都市として古くから発展してきた。JR一ノ関駅西口から広がる市街地は、多くの店が建ち並び、たくさんの人が往来した。だが、近年は、郊外型大規模集客施設の立地や商店主の高齢化などにより都市機能が低下し、かつての賑わいは薄れつつある。

このような状況を打開するため市は、JR一ノ関駅から大町、地主町、さらには市役所、県立磐井病院跡地を含むエリアを対象に、中心市街地形成の基本方針となるランドデザインを描いた。「一関地域中心市街地ゾーニング構想」である。ゾーニングの整備は、勝部修市長が掲げる目玉事業。磐井川の堤防改修事業を機に、公共施設の再配置を含め、市街

下し、かつての賑わいは薄れつつある。このような状況を打開するため市は、JR一ノ関駅から大町、地主町、さらには市役所、県立磐井病院跡地を含むエリアを対象に、中心市街地形成の基本方針となるランドデザインを描いた。「一関地域中心市街地ゾーニング構想」である。ゾーニングの整備は、勝部修市長が掲げる目玉事業。磐井川の堤防改修事業を機に、公共施設の再配置を含め、市街